

こっこめ通信 10 2020

「派手な蛾と地味なシダ」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

八丈島でも朝晩はめっきり涼しくなり、季節が確実に進んでいるのが感じられます。
ところで八丈島で自然観察を続けていると、これまで記録されていなかった生きものが毎年のように増えていくのに改めて驚かされます。外部の方が提供してくれた情報によって確認することもありますし、館のスタッフが調査中に発見することもあります。そこで今回は「派手な蛾と地味なシダ」の新しい記録を紹介します。

新たにリストに加わった初記録の蛾

島に住む菊池卓氏より、いままで記録されていない蛾を採集したとの情報を頂き、撮影させてもらいました。

【オオルリオビクチバ *Ischyja manlia*】

九州、対馬、屋久島、トカラ列島、奄美大島、沖縄、西表島、小笠原に分布。本州でも採集記録はあるようですが偶産ではないかと言われています。国外では中国南部、東南アジアからインドまで広範囲に分布。幼虫の食草はヤブニッケイやムベ、イジュなど。和名のオオルリにもなっている後翅の青紫色が特徴的な蛾です。

オオルリオビクチバ



【キマエコノハ *Eudocima salaminia*】

九州、対馬、屋久島、五島列島、屋久島、トカラ列島、沖縄、石垣島、西表島に分布。本州でも採集記録はあるようですが偶産ではないかと言われています。国外ではアフリカからインド、オーストラリア、ミクロネシアなどかなり広範囲に分布。幼虫の食草はコバノハスノハカズラなど。前翅の縁が薄茶色で、翅を閉じて止まった状態は、縁が丸まった緑の葉に見えます。

キマエコノハ



【キモンクチバ *Ophisma gravata*】

九州、対馬、屋久島、甑島、種子島、屋久島、奄美大島、沖縄、石垣島、西表島、小笠原に分布。本州でも採集記録はあるようですが偶産ではないかと言われています。国外ではインドからオーストラリア、ニューカレドニア、東南アジア、中国などかなり広範囲に分布。幼虫の食草は水際に生えるホソバノウナギツカミなど。前翅の先端が鍵状に尖り、後翅には大きな黒い斑があります。

キモンクチバ



今回記録された三種は共に南方系の蛾です。今年の八丈島の夏は太平洋高気圧に覆われ、天気が良く、海が静かな日が続きました。弱い南西の風の日が多く、強風の日が少なかったのですが、この事が南方系の蛾が南から飛んでくる要因になったのでしょうか？

八丈島まで飛んできた（飛ばされてきた）ならば、相当長い距離を飛び続けたことになりますが…。(H.T)

「アカコッコ」は日本固有のヒタキ科（旧ツグミ科）の鳥で、国の天然記念物に指定されています。
八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

仲間入り認定！〔イヌカタヒバ〕

イヌカタヒバは本来の自生地である沖縄県では個体数が少なく絶滅危惧種に指定されている程ですが、栽培品から広がって現在では関東地方でも見ることができます。八丈島でも人家の庭から逃げ出したらしい個体を見かけることがあり、これまで野生植物とは考えていませんでした。しかし今回イヌカタヒバを確認した場所は人里離れた沢沿いなので、完全に八丈島に定着して繁殖していると判断し、国内帰化植物として八丈島の野生植物リストに加えることにしました。



イヌカタヒバ *Selaginella moellendorffii*

●砂防堤の壁に群生するイヌカタヒバ。

自然の中で初めての植物を確認すると少なからずワクワク興奮するものですが、今回のイヌカタヒバは例外でした。

人家の周りで何度も見たことがあり、国内各地で栽培品が逸出して野生化していることも判っていたので、「アア、八丈島でもやっぱり逃げ出していたか。」という感想です。



●枝先に無性芽が着いています。

素朴な疑問ですが、こうした無性芽が親植物から離れて無事に育つ割合はどの程度なのでしょう？

まだ親植物と繋がっている状態で無性芽が成長するヒノキシダやヌリトラノオはともかく、このイヌカタヒバやハチジョウカグマなどの無性芽は親植物から離れてから完全に自力で成長しなければならないように思えます。

どんな環境に放り出されるかも判らないので、親植物にまで成長できる率はかなり低そうです。



●背葉を拡大してみました。

背葉の先は尖って芒状になっています。

また、よく見ると葉の縁が半透明の膜状になっていて、微細な刺があります。

八丈島では帰化植物はちっとも珍しくありませんが、シダ植物の帰化は他に聞いたことがありません。

今回のイヌカタヒバも将来は八丈島で普通に見られる景色の一部になっていくのでしょうか？

(T.K.)

八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きものを観察して季節を感じてもらう目的で「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。季節の変化を感じられる植物は全て記録し、野鳥や昆虫の様子も観察しています。9月は通常通り13日(日)に実施したのですが、島内で新型コロナウイルスの感染者が確認されたこともあって外出を自粛された方が多かったです。参加はお一人だけでした。

八丈植物公園季節調査(2020年第9回)参加者:茂手木,VC 菊池

NO.	和名(島名)	状態	NO.	和名(島名)	状態	NO.	和名(島名)	状態
草本			30	ツククサ	花	11	テイカカズラ	実
1	アオツツラフジ	花	31	テリハノブドウ	実	12	トベラ	実
2	アオノクマタケラン	実	32	テンツキ	実	13	ハチジョウキブシ	実
3	アシタバ	花と実	33	ナンバンギセル	花	14	ヒサカキ	実
4	アメリカスズメノヒエ	花	34	ネズミノオ	実	15	ヒメユズリハ	実
5	イガガヤツリ	実	35	ハチジョウアザミ	花	16	マサキ	若い実
6	イヌホオズキ	花	36	ハマコンギク	花	17	ヤブニッケイ	実、少ない
7	イワニガナ	花	37	ヒナギキョウ	花と実	シダ植物		
8	ウスベニニガナ	花と実	38	ヒナタイノコズチ	花	1	イシカグマ	
9	ウリクサ	花と実	39	ヒメクグ	実	2	オオイタチシダ	
10	オニタビラコ	花	40	フタバムグラ	花と実	3	オオタニワタリ	
11	オニドコロ	実	41	ヘクソカズラ	花	4	オニヤブソテツ	
12	オムナグサ	蕾	42	ホソバツルメヒシバ	実	5	カニクサ	
13	カタバミ	花と実	43	メナモミ	花	6	タチクラマゴケ	
14	カラムシ	蕾	44	メヒシバ	花と実	7	タチシノブ	
15	ガンクビソウ	蕾	45	メリケンカルカヤ	蕾	8	タマシダ	
16	キツネノマゴ	花	46	ヤブガラシ	花	9	ナチシケシダ	
17	キンゴジカ	花	47	ヤマイ	実	10	ノキシノブ	
18	クグ	実	48	ヨモギ	蕾	11	ハカタシダ	
19	クズ	花、盛り	木本			12	ハチジョウカナワラビ	
20	コニシキソウ	花と実	1	イタピカズラ	実	13	ハチジョウシダ	
21	コミカンソウ	花と実	2	イヌビワ	実	14	ホシダ	
22	サクユリ	実	3	エノキ	実が残る	15	ホラシノブ	
23	ザクロソウ	花と実	4	オオバヤシャブシ	実	16	マメツタ	
24	シチトウスミレ	閉鎖花	5	ガクアジサイ	実	17	ミゾシダ	
25	シマスズメノヒエ	花と実	6	カラスザンショウ	若い実	18	ワラビ	
26	ススキの仲間	花	7	サカキカズラ	蕾	今回はシダ植物18種を含む83種の植物を観察しました。セミの声やトンボの姿にも秋の訪れが感じられました。		
27	センニンソウ	花	8	シチトウエビヅル	花			
28	タチスズメノヒエ	花と実	9	シチトウタラノキ	蕾			
29	チヂミザサ	花	10	シマクサギ	花			

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、「オムナグサ」にスポットを当ててみたいと思います。



オムナグサ *Drymaria cordata* var. *pacifica*

ナデシコ科の帰化植物です。この欄で帰化植物を取り上げるのは珍しいのですが、八丈島らしい植物なので紹介します。

既存の資料によると原産地は南アメリカで、宮崎県の一部や小笠原、八丈島、青ヶ島に帰化しているとあります。

八丈島では古くから知られている畑の雑草ですが、日本国内では珍しい植物らしいです。それだけにあまり詳しい調査がなされていないようで、実際の植物を仔細に観察すると図鑑の記載とは合わない部分が見つかり混乱してしまいます。要、再調査ですね。(T.K.)

2020 10

八丈ビジターセンター プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島(神湊)の潮の満ち引きの時刻です。
また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります				1	2	3 ガイドウォーク
4 ガイドウォーク	5	6	7	霜降 8	9	10 ガイドウォーク
11 ガイドウォーク 植物公園季節調査会	12	13	14	15	16	17 ガイドウォーク
18 ガイドウォーク 東山林道ハイキング	19	20	21	22	寒露 23	24 ガイドウォーク 八丈学講座 「裏見ヶ滝自然観察会」
25 ガイドウォーク	26	27	28	29	30	31

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！
10/11 (13:30～15:00) 中学生以上
ビジターセンター集合・解散 無料 定員: 10名

秋の特別行事

「東山林道ハイキング」

環境省が提唱する 全国・自然歩道を歩こう月間に合わせて実施するハイキング行事です。
10/18 (10:00～15:30) 小学生以上 (小学生は保護者同伴)
中之郷 新堤周辺 集合・解散 (後日決定) 参加費: 50円 定員: 10名

八丈学講座

「裏見ヶ滝自然観察会」

毎月行っている八丈学講座。今月は中之郷 裏見ヶ滝周辺を散歩します。
10/24 (13:30～15:00) 中学生以上
中之郷温泉スタンド駐車場 集合・解散 参加費: 50円 定員: 10名

植物公園ガイドウォーク

解説員が植物公園内をご案内します。
毎週 土日及び祝日 (10:30～約1時間) だれでも参加できます。
ビジターセンター集合・解散 無料 定員: 10名

ビデオプログラム

10:00～ 八丈・海・生きものたち

11:00～ おじゃりやれ 八丈島

14:00～ おじゃりやれ 八丈島

15:00～ おじゃりやれ 八丈島

16:00～ 八丈・海・生きものたち

当面の間は上記のみの上映になります

東京都八丈ビジターセンター 2020.10.1 第233号

開館時間 9:00～16:45 年中無休 (入館無料)
〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話: 04996-2-4811 Fax: 04996-2-4888

編集後記

季節は秋、GoTo トラベルキャンペーンに東京都も追加され、いよいよ本格的な行楽シーズンが始まります。
八丈ビジターセンターでも引き続き新型コロナウイルスの感染拡大防止に細心の注意を払って運営しています。 (T.K.)